



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

口腔がん治療の新たな展開

口腔腫瘍外科 科長 嶋根 俊和

口腔に発生するがんは全がんの1~3%程度といわれています。この数字通り「がん」の中では「マイナーながん」になってしまいます。しかし口腔がんの患者さんは増加傾向にあることや、専門に治療をする施設が少ないため、我々口腔がんを治療する医療者側からすると「マイナーながん」では全くありません。そして口腔がんの多くは手術を行うことが多いのですが、不幸にも再発、転移した場合にはこの「マイナーながん」の影響で治療に使える抗がん剤などの種類が少ない状況が続いていました。

しかし、昨年のノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学特別教授の本庶 佑先生の偉大な発見のおかげで、口腔がんを治療する我々に新たな武器である抗PD-1抗体(ニボルマブ)が加わりました。この薬はこれまでの直接がんを標的にした抗がん剤とは全く異なったタイプのもので、がん患者さんの体の中でがん細胞が免疫細胞にブレーキをかけてしまっているのを解除することで、自身のもともと持っている免疫の力を使ってがんを攻撃する力を高める免疫療法という治療法になります。肺がんなどに使用されていましたが、2017年3月から「再発または遠隔転移を有する頭頸部癌」に対し使用が可能となりました。そのためまだ口腔がん領域では使用の歴史が浅い状態です。このようにこれまでがんの治療は手術、放射線療法、化学療法の3本柱でしたが、このがん免疫療法が新たに加わったことで口腔がん治療にも新たな展開がみられはじめています。

また「がんゲノム医療」という新たな治療法も進んでいます。がん細胞には遺伝子変異があり、この遺伝子変異を調べることでどの薬が効くかを判定し治療を行うものです。これまでのこの「がん」にはこの薬という治療法に加え、遺伝子変異ごとに薬の選択を行うという治療法になり選択できる薬が増えることとなります。治療施設や適応となる患者さんの詳細はまだ公表されていませんが、今後近いうちに自由診療から保険診療になっていくことが予測されています。

これまで治療の選択肢の少なかった口腔がん治療でも新たな展開がこれからもどんどんでることが予想されます。口腔がん患者さんのためにも治療の選択肢が広がり、安全で効果のある治療が行えるようになることを期待しています。



口腔腫瘍外科 紹介

口腔腫瘍外科 助教 齊藤 芳郎

口腔は咀嚼、嚥下、構音、そして顔面の形態に関与する重要な部位です。口腔がんや唾液腺がんは、これらの機能や審美的形態に障害を及ぼす可能性があり、専門的な治療が必要となります。われわれ口腔腫瘍外科は2014年の10月に開設し、口腔がんの治療に携わっております。開設から4年半経過いたしました。患者さんの数も年々増加しており、安定した治療を提供することができております。

口腔腫瘍外科のスタッフは頭頸部外科医師である嶋根俊和を科長とし、常勤歯科医師4名の計5名で構成されています。また、頭頸部外科の医師3名、口腔リハビリテーション科歯科医師とチームを組み昭和大学頭頸部腫瘍センターとして昭和大学歯科病院と昭和大学病院の両施設にて診療を行っております。

本邦では国立がん研究センターの報告によると2017年の時点で約22,800人が口腔・咽頭がん罹患しているとされ、その8,000人が口腔・咽頭がんによって死亡しているとされています。さらに、口腔がんの罹患患者数は年々増加していると言われています。口腔がんによる死亡数の低減には早期発見が最も重要です。われわれは、近隣の歯科医師会の先生がたとともに2017年から口腔がん検診にも取り組んでいます。歯科医師会の先生がたのお力もあり、患者さんの口腔がんへの理解は一層深まり、さらに紹介患者数も年々増加しております。近隣の歯科医師の先生がたには厚く御礼申し上げます。

治療に関しましては手術、放射線治療、化学療法、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせた治療を行い、患者さんに最善な治療を心がけております。特に2018年度より、がん研有明病院形成外科 副部長の矢野智之先生を兼任講師とし、口腔がん手術によって大きく欠損した組織や機能を可能な限り改善させる、遊離皮

弁(大腿部や腕から組織を採取し頸部の血管と吻合する)による口腔再建手術に取り組んでいます。患者さんの術後の機能や形態の改善という点においても、より高度で安定した治療が提供できているのではと考えております。



遊離皮弁による口腔再建手術

口腔腫瘍外科・頭頸部腫瘍センターは昭和大学の特徴である学部を超えた連携が1番の強みです。常にスタッフ間での意見交換が行われ、それぞれの良い点を出し合い患者さんに実直に向き合っています。われわれも日々成長し、患者さんにより良い医療を提供できるように心がけておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



近隣の歯科医師会および患者さんへの講演模様



昭和大学 頭頸部腫瘍センタースタッフ

インプラント周囲炎とは？

インプラント歯科 科長 宗像 源博

現在主流になっているチタン製ネジを利用したインプラント治療は約50年前にスウェーデンから世界へ広まった治療で、1本だけ歯が無い状態から1本も歯がない総入れ歯の状態まで人工の歯を作製することが可能です。また10年使用した場合でも、約95%のインプラントがそのまま使用できるという非常に有効な治療となっております。



しかし、近年インプラント治療の普及とともに、インプラント治療後のインプラント周囲炎、簡単に言いますと、インプラントの歯周病の状態になる方も多くいらっしゃいます。

インプラント周囲炎はそのまま放っておくと、インプ

ラント周囲の骨を溶かし、最終的にはインプラントの撤去が必要になるため、インプラントの大敵です。

インプラント周囲炎になる前に、インプラントの歯肉炎の状態(インプラント周囲粘膜炎)を早期に発見し、対処することが大切です。インプラント周囲粘膜炎は骨にまで炎症が進んでおらず、歯ブラシや軽度の汚染除去で治療可能です。もしインプラント周囲炎になってしまった場合でも、治療をできるだけ早期に行うことにより回復することが可能です。

当科では、他の歯科医院にてインプラント治療をされた方のメンテナンスやトラブルの相談、インプラント周囲炎治療も行っております。よく噛める、歯を長持ちさせるインプラントをできる限り長く、ずっと維持していくために、メンテナンスとインプラント周囲炎のチェックが大切です。

お気軽にインプラント歯科までご相談ください。



図1 インプラント周囲炎の状態

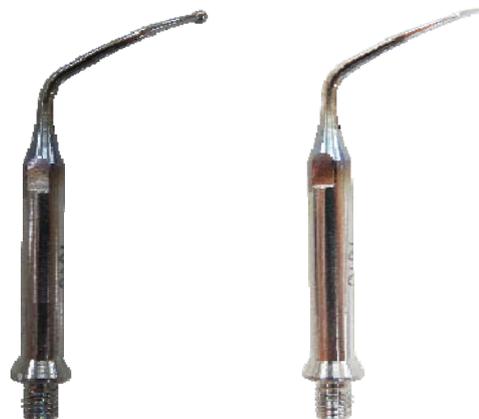


図2 当科開発のインプラント周囲炎治療チップ(OSADA社製)

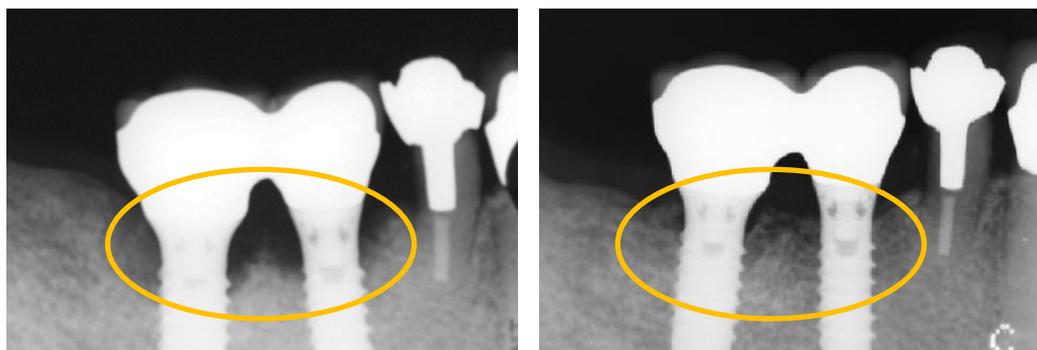


図3 インプラント周囲炎の治療前後
左 インプラント周囲炎治療前 骨の欠損あり
右 インプラント周囲炎治療後 骨の欠損が治癒している

部署紹介 臨床検査室

当臨床検査室は、昨年8月より臨床検査技師2名で業務を担当しています。守備範囲は多岐にわたり、採血や血液・尿検査、循環器領域検査（心電図・24時間心電図・血圧脈波）、呼吸器領域検査（肺活量）などを行っています。また、血液・体液曝露時の迅速検査も行っています。

採血採尿での来室が1番多く、採取した血液や尿は至急で検査するほかに院外の専門施設で精密検査を行っています。専門施設での検査は結果が出るまでに少し時間がかかりますが、何百種類もの項目を検査でき、臨床側へ豊富な情報を提供しています。また採血後に処理を行い時間短縮に努めています。

当院は地域の歯科医院からの紹介で、基礎疾患があり一般の歯科医院では治療が困難な患者さんが多く受診されます。治療を安全に行うための病状把握や全身麻酔で行う処置や手術のための健康状態確認が必要になります。検査室の待ち時間は、土曜日の午前中は長く平日の午前中や土曜日の午後は比較的短くなっています。

臨床検査室は安心して治療が受けられるよう診療のサポートを行っています。

検査についてわからないことがありましたら、お気軽にお声をかけてください。

臨床検査室 手塚 美紀



昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会報告

第14回昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が、2019年2月6日(水)20:00～21:00に昭和大学1号館7階講堂で開催されました。周術期講習会は昭和大学口腔ケアセンター城南地域連携協議会を中核とした医科歯科連携のチーム医療の促進を目指し、周術期口腔機能管理に係る地域連携に必要な知識の習得を目的として年2回開催されています。

今回は、昭和大学医学部麻酔科学講座 大嶽浩司 教授に「遠隔集中治療患者管理プログラム(eICU)とは。周術期口腔ケア ー昭和大学病院のイマー ー」という演題で講演いただきました。eICUとは遠隔医療を行っている集中治療室(ICU)の事で、アジアで最初の取り組みを大嶽先生は実施されています。

当院では当たり前のように行われている、口腔内

診査は、大きい病院になればなるほど実施率が少ないのですが、昭和大学病院では、大嶽先生のご協力の下、全身麻酔を行う患者さんに積極的に口腔内診査を受けていただいております。術前・術中・術後の口腔健康管理を通じて、感染予防や早期退院を目指した取り組みを行っております。今後の超高齢社会でますます重要視されているICUの管理を集約化して、ICTを駆使しながら行う取り組みは、8つの附属病院を有する本学では、必須の取り組みと思われれます。

今後の周術期講習会は第15回：10月16日(水)20:00～、第16回：2020年2月5日(水)20:00～ とともに昭和大学旗の台キャンパス1号館7階講堂で開催されます。どうぞ、たくさんの参加をお待ちしております。

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司

編集後記

平成31年4月30日には平成という1つの時代が終わり、5月1日より新しい元号へと変わります。平成の由来は「内外、天地とも平和が達成される」だそうです。新しい時代まであと2か月!!!皆様にとって平成が平和で良い時代であり、そして来たる新時代がさらにより良いものであれば幸いです。

(Y.S)



冬の灯 撮影:兼田 麻矢